

2023 年度前期 大学入門ゼミフィールドワーク報告書

道頓堀で外国人観光客にインタビューする



道頓堀 ZAZA 前にて（撮影：2023 年 5 月 27 日、渡辺和之）

阪南大学国際観光学部

渡辺ゼミ

フィールドワークのテーマを決めるまで

国際観光学部 3年 SA 三好 広高

2023年4月、今年は8人の新生（男子4名、女子4名）を迎えました。彼らを補佐する3年生のSA(Student Assistant)の2名と教員1名を加え、計11名で大学入門ゼミはスタートしました。今年の1年生はほぼ関西出身で、大阪6人、愛媛1人、福岡1人です。

国際観光学部では、観光学の基礎を学ぶと同時に、同じゼミの学生同士で仲良くなり、大学生活に慣れることを目的として、フィールドワークをおこなっています。1年生の前期には、大阪市内を中心に日帰りでフィールドワークをおこなってきました。

今年は、1年生全てのゼミが集まって、道頓堀フィールドワークをすることになりました。全員で道頓堀にあるZAZAでお笑いのライブを聞き、大阪のエンターテインメントについて学ぶことになりました。同時に各ゼミであらかじめ決めたテーマでの調査することにしました。大学からは道頓堀周辺の見所で学べるテーマが6つ提示され、そのなかから各ゼミで好きなテーマを選んで見学することになったのです。そこで、ゼミで話し合った結果、わたしたちは「インバウンドが増加している様子を見学する」というテーマで調べることになりました。コロナもほぼ終息して、大阪の街で外国人をよく見かけるようになったからです。日本を訪れるインバウンドの統計は国際観光学入門の授業でも習ったことがあります。あのグラフがコロナ禍でどれだけ落ち込み、どれだけ回復したのかを作ってみたらどうだろうか。また、道頓堀を訪れる外国人にインタビューをしたらおもしろいのではないか。先生がついでにインタビューをしてみたらと勧めたので全員が賛成しました。

まず、1年生に外国人観光客に聞く質問を考えてもらいました。次に日本語から英語に直しました。英語で書いた質問内容の文法などが間違っていないか渡辺先生に見てもらいました。しかし心配なので国際観光学部のMatt先生にも見てもらって直してもらいました。また、Matt先生から20分だけ英語の発音のレッスンを受けました。

中国語と韓国語の質問を作成することにしました。「ついでに中国語と韓国語も作らない？」と、先生が調子によって言い出したからです。しかし、1年生のなかには中国語と韓国語の授業を受講している人がいても、まだ習い始めたばかりです。そこで、中国語の質問は渡辺ゼミ3年のゼミ生に作成してもらい、韓国語の質問は渡辺先生が作成し、国際観光学部の李先生に見てもらって、修正してもらいました。次にゼミの時間にみんなで英語のインタビューの練習をしました。SAと先生が外国人役となり、1年生が英語で練習をしました。最後にSAが英語と韓国語と中国語の質問とメモ欄をまとめた資料を作成しました。それを使って5月27日(土)に道頓堀に行きインタビューをしました。練習した成果が出て、ゼミ生達は上手くインタビューをすることが出来ました。

その成果をレポートにまとめました。このフィールドワークが1年生の思い出作りの場となり、国際観光学を学ぶきっかけになればと思います。以下、一読頂けると幸いです。

観光学を学ぶ意義

国際観光学部 1年 清水 紘奈

1. はじめに

フィールドワークの事前準備として、大学入門ゼミ全クラス合同で 2 週にわたって来村先生の講義を受けました。私はこの講義を受けて、なぜ観光学を学ぶのかを考えました。このレポートでは、2023 年 5 月 17 日に「観光学の調査」と題しておこなわれた第 1 回目の講義を紹介し、観光学を学ぶ意義について考察します。

2. 講義の要約

学問は、目的が大切であると来村先生は言います。観光学の目的は感動を生むことです。観光学が学問となるステップは調査→報告→研究の順になります。調査はすべての基礎であり、それがなければ報告や研究には進めません。また、観光学の調査は街や農村にひそむ感動を探します。反対に街や農村にひそむ感動は調査を深めるのに役立ちます。それを繰り返すことが重要です。

観光学の調査を下見と呼ぶべきだと来村先生は提唱します。下見とは感動を伝える準備であり、観光事業を前提とする調査でもあります。自分が感動しないことは他人が感動するはずがないので、それをふくらませてお客様に伝えることが重要です。気付かせて感動させます。見て感動させるだけでは SNS に負けてしまいます。気付くためには感受性を豊かにする必要があります。そこが人間の最後の砦です。われわれは調査ができなければ AI にくわれてしまいます。

観光学の調査は 3 つのステップにわかれています。まず、初心者は区域(マイクロ)観光調査からはじめるとよいです。お寺や神社の境内・博物館の館内・動物園や植物園の園内など施設の内部を調査し、そこに何があるのか、見取り図を作ります。そうすることで、施設への来訪者を増やすのが区域観光調査の目的です。

区域観光調査を習得した人は、次に、地域(セミマイクロ)観光調査へ進みます。地域観光調査の目的は地域にどんな観光資源があるのか見取り図を作ることであり、同時に地域への来訪者を増やすことです。地域の範囲は市町村程度で、日帰り旅行でいける範囲が地域観光調査の対象となると考えるとよいでしょう。

最後に、もっとも上級者向けなのが広域(マクロ)観光調査です。対象としては、宿泊旅行で行く範囲をカバーするのが広域観光調査であります。都道府県をまたがる新たな旅行企画を提案するためには、地域と地域を結ぶテーマが必要です。大手の旅行会社が売り出しているツアーは、まさに広域観光調査を企画化した商品です。広域観光調査をマスターすれば、旅行会社向きの企画が作れるようになります。

1年生のうちには区域観光調査からはじめ、地域観光調査、広域観光調査と進み、大学4年間で3つのステップが習得できるとよいです。区域観光調査は技術をつける場であり、地域観光調査は体力をつける場で、広域観光調査は知能を生かす場です。広域観光調査を例に、実地調査の手順を説明すると、次のようになります。①テーマの設定、②観光資源の選択、③下見(実地調査)、④商品化と販売(旅行代理店の業務)、⑤案内資料の作成と当日の案内、⑥実施報告と改善の6段階です。こうしたステップを経て、実地調査から実際にお客さんを案内する商品化まで繋げていくのです。

3. 考察

来村先生の講義を受け、私は観光について知識が全然ないことに気づきました。観光学の目的はただ単に観光する人達に知識を教えることが目的だと考えていましたが、本当の目的は感動を生むことだと学びました。そして、その感動を観光する人達にも与えていくのが観光学を学ぶ理由だと感じました。下見をすることは感動を伝えるための準備ですが、自分が感動しなければ他人が感動するわけがないのです。しかし、自分が感動しても他人が感動しない場合もあると思います。その場合は、他人が感動するまで下見を続けて、どうやったら自分の感動が相手に伝わるのかを工夫していくべきだと考えました。

私はこの講義を聞くまで、ツアーガイド、バスガイドなどの観光に携わる仕事をする人達は凄いとは感じていましたが、そこまで難しい職業とは思っていませんでした。だが、実際はその逆で、他人に感動を与えてもらうためには自分自身がその地に足を踏み込み、色々なパターンを考え、観光客に何を聞かれても答えられるように知識を得なければならないことを理解しました。観光に携わる仕事はとても難しい職業であると同時にとてもやりがいのある仕事だと感じました。あまり関心のある仕事ではありませんでしたが、今では関心が高まり、そのような仕事をしてみたいと思うようになりました。

道頓堀の歴史

国際観光学部 1年 村田 一翔

5月24日、われわれは来村先生の第2回授業を受けました。この日のテーマは道頓堀界隈の歴史でした。あわせて写真の撮り方も学びました。

来村先生によると、大阪の地形は大阪湾と大阪平野、そして丘陵地帯で構成されています。泉北から羽曳野にかけての丘陵地帯は末端で上町台地につながっています。上町台地の先端には大阪城があり、天王寺もこの上町台地の上にあります。この上町台地が大阪で1番古かった場所です。今日の大阪の町を作ったのは豊臣秀吉です。秀吉の時代には大阪城の近くに上町、その南の台地の部分に寺町、上町の西の低くなった場所に船場という町を作りました。上町は武士が住む町、寺町は寺がある町、船場は商人の町となりました。また大阪城の北側には天満寺内町がありました。そして江戸時代になると船場の町が発展しました。船場の町の周りには、堀を掘って、全国から運んできた物資を、堀を伝って船でお店に横付けできるようになっていました。

道頓堀もそうした江戸時代に作られた堀です。道頓堀は平野の商人が自分の財産を出して作ったそうです。はじめの頃は堀が行き止まりで、水が濁って臭かったそうです。それを堀の水が海に流れるように工事し直して、現在の形になったそうです。大阪の町は秀吉の頃にできた堀が町割りのもとになっています。背割りといって、大阪の町では堀を挟んで向かい側の人たちと同じ町内になりました。

写真の撮り方も習いました。観光の宣伝に使う写真は自分で撮影しないと駄目なのだそうです。プロに頼むと高くなります。ネットにあるものは著作権の問題も発生しますし、自分の見せたい構図のものはなかなかありません。たとえあっても解像度が低くて使えません。スマホでよいので、簡単な写真の撮り方を知っておくと、よいのだそうです。

初心者は三角形を意識して撮影するとよいそうです。撮影したい人物と背景の建物がちょうど三角形の形で構図に収まると、シャープに見えるのだそうです。また、5月はいい季節なので、背景に青い空をたくさん写し込みます。あざやかな写真となり、白い雲や白いビルにばえるそうです。

道頓堀のエンターテインメントと ZAZA の歴史

国際観光学部 1 年 佐藤 佳奈

道頓堀でのフィールドワークでは、道頓堀はお笑いと食が結びついた街だと学びました。このレポートでは、松村先生が作ってくれた街歩きのための資料をもとに道頓堀のエンターテインメントと ZAZA の歴史について紹介してゆきます。

2001 年「水都大阪の再生」が内閣官房都市再生本部によって都市再生プロジェクトに選ばれました。その後、親水空間の整備が進み、大阪のまちを舟運で回遊できるまちづくりをめざし、2009 水都大阪が開催され、現在の道頓堀へとつながりました。そのなかで「とんぼりリパークルーズ」を「なにわコミュニティーツーリズムコンソーシアム」が主催し、道頓堀で観光遊覧船の運行をはじめました。その筆頭構成組織が、事実上、阪南大学国際観光学で創設した「NPO 法人観光力推進ネットワーク・関西」でありました。現在のクルーズを運営する（株）インプリージョンや船を出している一本松海運は、阪南大学と縁が深い企業です。

2002 年 9 月には、現在 ZAZA の建つ場所に中座がありました。中座の解体工事中にガス爆発が起こり、法善寺横丁の北半分が類焼しました。類焼した法善寺界限は既存不適格建造物が多く、復興する際は、建築基準法の規制から道路幅員の拡張が絶対条件で、元通りの情緒ある雰囲気での復興は出来ない状況です。しかし、昔ながらの法善寺を愛する人々は元通りの復興を強く願い、多くの芸能人や文化人が、法善寺の復興に協力し、現在の大阪ミナミがあります。

かつて道頓堀は、多くの劇場が集まり、「道頓堀五座」と呼ばれ、たくさんの人でにぎわっていました。道頓堀には角座、浪花座、中座、朝日座、弁天座の 5 座がありました。しかし現在では劇場はほとんどが閉鎖されてしまいました。映画やテレビへ娯楽が広がっていき、最後に残った中座が 1999 年に閉館しました。地元関係者の間でも「演劇と演芸のまちを復活させたい」と願う声は根強くありました。

2010 年に、道頓堀中座の跡地が、「中座くいだおれビル」として新しくリニューアルして、歴史ある中座を受け継ぎ、地下 1 階に設立されました。この施設が私たちがお笑いのライブを聞いた ZAZA です。ZAZA は上方芸能文化を尊重しつつ、次世代のエンターテインメントを生み育て、道頓堀・大阪の賑わいづくりを目指しています。

ZAZA は、大阪のエンターテインメントの流れを残すために中座の跡地にできました。今回のフィールドワークを通して、ZAZA の歴史を知り、復興に向けて様々な工夫をしていることが印象に残りました。

参考文献

松村嘉久 2022 「大阪ミナミの見どころの説明」天満百番ほか松村ゼミ 20 代目

アンケートの結果から分かったこと

国際観光学部 1 年 稲田 衣莉

1. はじめに

私たちは5月27日に行われた難波フィールドワークで道頓堀にいる外国人に下記のようなアンケートを行いました。

2. アンケート内容

どこの国から来たのか、日本に来た目的、日本に来たのは何回目か、日本の印象、日本で買ったものなど、全部で5つの質問をしました。約1時間～2時間で、合計17組から答えを得ることが出来ました。

3. アンケート結果表と分かったこと

表1 出身国

出身国	数
アメリカ	6
フランス	2
スウェーデン	2
韓国	2
インド	1
中国	1
イギリス	1
フィリピン	1
メキシコ	1
合計	17

出典：調査による

調査：2023年5月27日土曜日

最初に「どこの国から来たのか」を質問しました。17組中の6組がアメリカの人達でした。フランス、スウェーデン、韓国が続いて2組となり2番目に多いです。他にもインド、中国、イギリス、フィリピンなどからの観光客がいました。

表2 インタビューで聞いた人の年齢と性別

年齢と性別	男	女	計
10代	2	3	5
20代	7	8	15
30代	5	2	7
40代	1	3	4
50代	1	1	2
60代	2	1	3
不明	2	0	2
計	20	18	38

出典：調査による

調査：2023年5月27日土曜日

「年齢と性別」では、20代の人が15人で、次いで30代の人が7人でした。男女の人数の差はほとんどなく、ほぼ同じくらいの人数でした。

表3 来訪目的

来訪目的	人
観光	11
歴史ツアー	2
study	2
買い物	1
文化	1
合計	17

出典：調査による

調査：2023年5月27日土曜日

「日本へ来た目的はなにか」を聞いたところ、約半分の11組が日本へ「観光をしに来た」と答えました。次に歴史ツアーとStudy2組であり、日本に勉強しに訪れる人がいることが分かりました。他に、ショッピングをしに来た観光客や、日本文化を見ることを目的に訪れる外国人観光客もいることも分かりました。日本への留学生の方にもインタビューをする事が出来ました。

表4 日本の印象

日本の印象（自由回答）

楽しかった

良かった

大変良かった

すばらしい(great)

ナイス

出典：調査による

調査：2023年5月27日土曜日

「日本の印象はどうだったか」を聞きました。外国人観光客の答えは、どれも良いものでした。

表5 日本の良かった点

よかった点（自由回答）

親切

フレンドリー

礼儀正しい

街が美しい

文化財の保存が良い

出典：調査による

調査：2023年5月27日土曜日

そこで、良かった点の例を複数あげてもらくと、「日本の方は親切だ」、「食べ物が美味しい」、「すばらしい」、「礼儀正しい」、「街が美しい」、「文化財の保存が良い」など、とても笑顔で良い評価を聞くことが出来ました。

表6 日本で買ったもの

食べ物
お菓子(ポッキー・こんにゃくゼリー)
服
本、アニメ
時計
キーホルダー
靴
100均のもの
ジュエリー
コスメ
薬品
車
ガチャ

出典：調査による

調査：2023年5月27日土曜日

「日本で何を買ったのか」を質問しました。日本食を食べに来た方も多く、ショッピングを楽しむ観光客の方は、漫画やガチャガチャ、洋服、お土産などを買っていました。例えば食べ物、お菓子、本、アニメ、時計、キーホルダー、靴、100均のもの、ジュエリー、コスメ、薬品、車、ガチャなどがあげられます。

4. 考察

表1の出身国では、アメリカ人の観光客がもっとも多い結果となりました。しかし、道頓堀の周辺を歩いている人達を私たちが見たところ、アジア系の人達の人数の方が多かった印象が残っております。これは、おそらく、私たちがほとんど英語で質問を行ったため、英語の話せそうな欧米やヨーロッパ方面の人達ばかりに質問した結果がアンケートにあらわれてしまったのかとも考えることができます。

また、男女の人数の差はほとんど見られませんでした。年齢的に見ると若い人たちが多く、観光や買い物目的に日本を訪れていることが分かりました。買い物には食べ物の回答が多く、ポッキーやこんにゃくゼリーなど、日本でしか買うことのできない食べ物を多く買っていました。また、日本の有名なアニメや漫画のグッズを目的に買い物に来る人もいました。

このように道頓堀を訪れる観光客は様々な目的に来ることが分かりました。

道頓堀で外国の方へ行ったインタビューについて

国際観光学部1年 岡田 碧唯

1.はじめに

2023年5月27日土曜日に大阪の道頓堀でフィールドワークを行ないました。私達は、大阪の観光客が多い場所で外国の方へ直接インタビューをしました。インタビューを行い、なぜ外国の方は、日本へ観光をしに来ているのかを調べました。その結果を簡単にし、質問をまとめ、以下に記します。

2.結果

当日、私たちは、4組の外国人に話を聞くことができました。1人目の方は、20代後半ぐらいのアメリカ人のカップル2人組でした。日本に来るのは初めてだと聞きました。来日した目的は、文化(Culture)を知りにきたそうです。「日本の印象は？」と聞くと、とても素晴らしいと答えました。日本で買ったものは、食べ物だと、答えていました。2人目の人は、40代2人と10代1人のアメリカ人の家族3人組でした。日本に来るのは、初めてだそうです。来日した目的は、旅行(Travel)と答えておりました。日本の印象は、驚異的で素晴らしいそうです。日本で買ったものは、本や、ガチャガチャと答えました。3人目は、10代から20代のアメリカ人7人組(男性3人女性4人)のグループでした。日本に来るのは初めてだそうです。来日した目的は、日本の歴史を勉強するためだそうです。日本の印象は素敵だそうです。日本で買ったものは、女性は化粧品、男性はナイキの靴と答えていました。4人目は20代前半のフランス人の女性2人の友達でした。日本に来るのは4回目だそうです。日本の印象はすごいとのこと。来日した目的は日本の学校に通っているのだそうです。日本で買ったものはこれから買う予定であると答えました。

3.考察

今回のフィールドワークをしてみて、日本の印象はすごく良い事が分かりました。日本の方は親切だ、素晴らしいなどの回答の結果が得られ、日本人の私の視点から見ても嬉しかったです。私がインタビューを行ったアメリカの家族が、とても楽しそうに、「今からたこやきを食べに行くの！」と笑顔でした。あまり英語を話せない私でも、真剣に聞いてくれようとして、質問に答える時にも、楽しそうに返してくれました。ぜひまた次の機会にも外国の方と話したいと強く思いました。

外国人観光客が日本に戻ってきているのか

国際観光学部 1年 原 優輔

2023年5月27日土曜日に大学入門ゼミでフィールドワークを行いました。それに先立ち渡辺入門ゼミのメンバーで何をするか話し合った結果、外国人にインタビューをすることになりました。そこで、私は普段の大阪では外国人が少なくなっていると思っていたが、道頓堀に行ってみて実際は多くの外国人がいました。このレポートでは、コロナ前の2019年5月とコロナ後の2023年5月の訪日外国人者数の統計をもとに、どのくらいの人に戻ってきているのか比較し、また、どの国の外国人がコロナ後に戻ってきているのか日本全体の統計と我々のアンケートをもとに明らかにします。

表1 訪日外国人数の推移と道頓堀でのアンケートとの比較

国名	訪日外国人数(1)			道頓堀でのアンケート(2)		
	2019年5月	%	2023年5月	%	2023年5月	%
中国	756365	27.3	134400	7.1	1	5.9
韓国	603394	21.8	515700	27.2	2	11.8
台湾	426537	15.4	303300	16.0		
アメリカ	156962	5.7	183400	9.7	6	35.3
香港	189007	6.8	154400	8.1		
タイ	107857	3.9	80700	4.2		
フィリピン	59578	2.1	49900	2.6	1	5.9
オーストラリア	46223	1.7	40800	2.1		
ベトナム	39900	1.4	45800	2.4		
カナダ	35335	1.3	42300	2.2		
シンガポール	37650	1.4	49700	2.6		
マレーシア	42629	1.5	34000	1.8		
スウェーデン	?		?	?	2	11.8
メキシコ	5482	0.2	8500	0.4	1	5.9
インド	19914	0.7	18000	0.9	1	5.9
フランス	30863	1.1	36800	1.9	2	11.8
イギリス	?		?	?	1	5.9
訪日外国人総数	2773091	100	1898900	100	17	100

出典：(1)https://www.jnto.go.jp/statistics/data/20230621_monthly.pdf、(2)道頓堀でのアンケート調査

表1は、日本政府観光局(jnto)発表の資料にある訪日外国人の推移と道頓堀でのアンケートとを比較したものです。コロナ前の2019年の5月とコロナ後の2023年の5月の人数を比較してみました。すると日本を訪れた外国人の総数は、コロナ前277万人あまりいたのが、コロナ後には189万人あまりまで減ってしまいました。なかでも多く人数が減ったのは、中国です。2019年5月では75万人あまりいたのが、2023年5月には13.4万人あまりまで減り、コロナ前の約5分の1の人数になってしまいました。中国はコロナ前の訪日外国人は第1位だったのが、韓国、台湾、アメリカ、台湾に抜かれ、第5位にまで落ちまし

た。他に人数が減った国を見ると、韓国、台湾、香港、タイ、フィリピン、マレーシア、インドなどです。これらの国々は、中国ほどではないが、数が減少しています。逆にアメリカ、ベトナム、カナダ、シンガポール、メキシコ、フランスなど増えている国もあります。

次に我々が2023年5月に道頓堀で行ったアンケートと、統計にある訪日外国人数を比較します。訪日外国人数で見ると、1位が韓国、2位が台湾、3位アメリカ、4位が香港、5位が中国、6位がタイ、7位がフィリピンです。我々の道頓堀でのアンケートを見てみると、1位がアメリカ、2位が韓国、スウェーデン、フランス、3位が中国、フィリピン、メキシコ、インド、イギリスです。フィールドワーク当日、ゼミのメンバー全員で、17人の外国人にインタビューをしました。内訳は、インド、中国、イギリス、フィリピン、メキシコの観光客が1人、フランス、韓国、スウェーデンの観光客が2人、アメリカの観光客が6人です。我々のアンケートでは、スウェーデン、フランス、メキシコ、インド、イギリスなど、訪日外国人数では、上位7位までに入らなかった国も上位に入っていました。

来訪目的では、我々のアンケートでは、観光目的が9組で、そのうち1組がUSJを訪れたと言っていました。また、韓国の観光客の2組は、日本の歴史のツアーに参加したと言っていました。他にも、勉強をしに来た観光客が2組、買い物をしに来た観光客、日本の文化を楽しみに来た観光客がそれぞれ1組ずついました。また、日本の印象では、どの観光客も楽しかった、大変よかった、素晴らしい、ナイス、いい旅だったという声がありました。そこで、日本のどこが良かったかを聞いてみると、親切、フレンドリー、礼儀正しい、街が美しい、文化財の保存が良いと言っていました。

最後に調査をして、考えたことを述べていきます。私は普段の天王寺や梅田で見るとコロナ前と比べて外国人が減っているという印象を持っていました。だが、道頓堀に行ってみると、外国人は戻りつつあると思いました。実際に総数で見ると、コロナ前の人数ではないが、かなり戻ってきていると確認できました。逆に中国のように減っている国もありましたが、アメリカのように増えている国もあり、この点では我々の調査でも確認できました。ただし、訪日外国人数と我々のアンケートとの間では、訪問人数の国別順位には違いが見られました。その理由は、日本全体と道頓堀の傾向が違うからなのか、我々の調査した人数が少なかったからなのか、これらのデータからでは判断できません。やはり、アンケートをするには、たくさんの人数に聞かないといけないと学びました。

また、アンケート調査の結果から、外国人観光客の来訪目的では、半分以上が観光を目的としていました。日本は、親切や街が美しい、文化財の保存が良い、などの声があったことから、外国人観光客は、楽しく観光ができる場所で街が美しい場所に観光をしに来ていました。外国人は日本に好印象を持っているということがよく分かりました。

参考文献

日本政府観光局「報道発表資料：訪日外国人（2023年5月推計値）」

https://www.jnto.go.jp/statistics/data/20230621_monthly.pdf（閲覧日：2023年7月20日）

SA から見たフィールドワーク

国際観光学部 3年 SA 水島 直嗣

フィールドワークの目的

今回のフィールドワークでは、新入生の親睦を深めるとともにフィールドワークの基本的な手法の習得、また道頓堀界隈のインバウンド観光の実態を外国人観光客にインタビューをして実際にふれあい学んで今後の活動に活かす学習とします。

SA としての目標

一年生にとって初めてのフィールドワークなので SA として一年生が楽しく自主的に行動し、成長の手助けになると同時に自分自身にとってもプラスになるようにします。

また前期のフィールドワークで見つけた反省点や改善点を後期のフィールドワークに活かし後期の学習をより楽しくまた効率よく内容の濃いフィールドワークができるようにするための学習とします。

インタビュー手段

難波、道頓堀に観光に来ている外国人に事前に考えてきました。年齢、国、日本に来た目的、日本に来た回数、日本の印象、日本で買ったもの、この6項目についてアンケートをします。このアンケートをもとに外国人観光客が日本に求めるものや日本の魅力について集計しました。

結果

来訪者はアメリカが最も多く、多くの来訪者は日本に観光に来ていることがわかりました(表1)。また年代は20代が最も多かったです(表2)。フィールドワーク中に道頓堀ですれ違う外国人観光客の多くは大きく膨らんだドラックストアの買い物袋やドンキホーテの買い物袋を持っていました。またインタビューをした外国人観光客に日本で一番買った物を聞いたところ抹茶のお菓子や医薬品を多く買っていました。

来訪目的は観光が最も多く、中でも日本の文化や歴史を学びに来ている観光者が多かったです(表3)。

考察

今回のフィールドワークで日本に来ている外国人観光客は多国籍であり、観光目的だけでなく日本人が当たり前のように暮らしている生活の中に外国観光客が求めている観光があるのだとわかりました。

こういった訪日外国人と直接話、触れ合うことによりインターネットだけでは見えない日本の観光の実態が見え、訪日外国人の目線になって観光を考えることで日本の観光が今よりもっと成長することができると感じました。

表1 出身国

アメリカ	6
フランス	2
韓国	2
スウェーデン	2
ドイツ	1
中国	1
イギリス	1
フィリピン	1
メキシコ	1
合計	17

出典：アンケートによる（2023年5月27日）。

表2 年齢と性別(人)

年齢	男性	女性
10代	2	3
20代	7	8
30代	5	2
40代	1	3
50代	1	1
60代	2	1
不明	2	0
計	20	18

出典：アンケートによる（2023年5月27日）。

表3 来日目的（人）

観光	11
歴史ツアー	2
勉強	2
買い物	1
文化	1
計	17

出典：アンケートによる（2023年5月27日）。



写真1 道頓堀にて（撮影：2023年5月27日、渡辺和之）

あとがき

今年は学部全員で道頓堀にフィールドワークに行きました。松村学部長の案内で道頓堀はお笑いと食が融合した街であることを理解するためです。学生たちは ZAZA のお笑いの公演を聞きながら、かつてここに中座という劇場があったことを学びました。エンターテインメントに導かれながら街歩きを楽しみ、ミナミの都市空間について学ぶのです。

学生たちは、外国人へのインタビューも楽しそうにやっていました。最初は Google 先生頼みの英語の質問作りでしたが、コールドウェル先生に直してもらい、完全なものになりました。しかし、本番になってみると、案の定、学生たちは外国人に最初の一言をかけるのに手間取っていました。「仕方ない。では私が・・・」と思った瞬間、男子学生の 1 人が声をかけ出しました。しかも質問のメモすら見ていません。何だ、ちゃんとしゃべれるのではないか。続いてためらっていた学生たちも次々に質問をはじめました。女子学生の 1 人はやりはじめると次第に熱中し、何人にも声をかけていました。

もちろん、「アンケートはちょっと」とためらう外国人もいます。そういうこともあることを学ぶのもフィールドワークです。ただ、半数以上の人たちは好意的に質問に答えてくれたのではないかと思います。

アドリブのできるのであれば、質問用紙はいらなかったのではないかと。そう考える人もいるかもしれません。だが、備えあれば患い無しです。私も、調子に乗って作った韓国語の質問用紙がなかったら、きっと韓国人の中学生一行に英語で声をかけていただろうと思います。中国語の質問用紙はとうとう使わずじまいでありました。英語は苦手という学生でも、私の韓国語や中国語よりはまだできるようです。来年までには、私ももう少し練習して、アドリブでも質問できるようにならねばならないと思いました（渡辺和之）。

++++
渡辺和之（編）『2023 度後期大学入門ゼミフィールドワーク報告書：道頓堀で外国人観光客にインタビューする』阪南大学国際観光学部渡辺研究室 2023 年 11 月 20 日発行
〒580-0033 大阪府松原市天美南 1-108-1 阪南大学国際観光学部
電話：072-332-1224 メール：watanabe@hannan-u.ac.jp URL <https://www.hannan-u.ac.jp/> Kazuyuki Watanabe (ed.) 2023 Interview for inbound tourists in Dotonbori, Osaka: Students' Fieldwork Reports 2023. Osaka: Faculty of International Tourism, Hannan University. Address: 1-108-1, Amami-Minami, Matsubara, Osaka, 580-0033, Japan.
E-mail: watanabe@hannan-u.ac.jp

++++